

あしよろ・ハードサポート通信

北海道胆振東部地震ののち、北海道全域での停電という未曾有の事態が起きました。足寄町では、復旧が早かった酪農場で約 21 時間、最も遅いところでは約 46 時間の停電が続きました。ここまで広域に影響が及んだ災害は初めてでした。

◆ 今回の停電での動き



- ◇発電機を持っている酪農場では、当日朝からいつも通りに搾乳や給餌ができていました。
- ◇朝イチで発電機を借りる手配ができた酪農場では、昼頃から搾乳開始できました。（借り先は、建機レンタル会社、身内、知人などが多かったです）
- ◇復旧した地域の発電機を、個人間で、停電中の酪農場に貸し出したり、発電機を持っている酪農家さんが地域内で発電機を運び回ったりしながら、各戸の搾乳が進みました。
- ※一般的に、搾乳間隔 16 時間以内であれば、乳量乳質に大きな問題は起こりづらい。

- ◇その他、動力付きバケツで 10 時間かけて搾乳、1 日 1 回搾乳で凌いだ、高泌乳牛だけ手搾り、復旧まで搾乳できなかった…、という状況でした。
- ◇発電機の有無、冷却の有無に関わらず、全戸のバルク内の生乳が廃棄となりました。

◆ 停電になったときの乳牛への対応



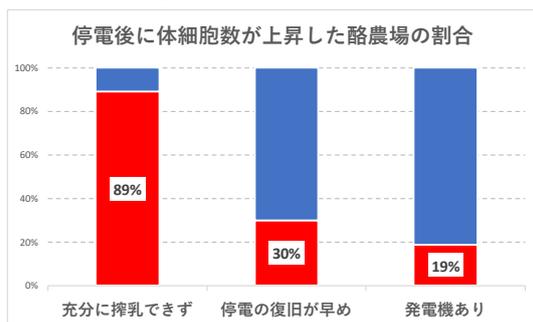
- ◇発電機がなく搾乳できないため、乳生産にブレーキをかける対応が、町内でも多く実践されていました。
- ◇水を飲むと食欲が増し、体内の機能が生乳生産に向かってしまうため、飲水量を制限します。
- ※ただし暑熱期では、状況に応じた給水量とする。

- ◇栄養価が高く、生乳生産にドライブをかける配合飼料や TMR の給餌を控えます。
- ◇絶食させるとルーメンの恒常性が完全に崩れてしまうため、低水分でガサのあるイネ科乾草、なければグラスサイレージのみを与えます。食べるなら麦稈の給与も OK で、ルーサンやデントコーンは粗飼料の中でも栄養価が高いので給与を控えます。

- ◇泌乳末期の搾乳牛は、乾乳にできてしまいます。
- ◇人を見るとエサや搾乳を求めて牛が騒ぐので、牛舎の出入りは最低限にします。

◆ 停電復旧後・・・

- ◇飲水量を開放し、濃厚飼料給餌量を段階的に元に戻します。
- ◇必ず、多少の乳房炎を発症するので、PLテスターを使って乳汁を念入りに調べます。
乳房炎に加えて、アルコール反応や血乳の発生もあり、復旧後も生乳廃棄が続いてしまった酪農場もありました。



◇発電機でいつも通り搾乳できた・または復旧が早かった酪農場に比べ、長時間、十分に搾乳できなかった酪農場では、体細胞が上昇した戸数割合が極端に増え、長時間搾乳されないと、乳牛に強いストレスがかかる、ということが如実に表れました（左表）。

- ◇停電後の乳質異常は、ストレス由来のものが大きいと考えています。乳牛の状態が落ち着くのを待つしかない中、JAあしよろでは緊急特別対策として、乳牛の生体内ストレス緩和・免疫力回復を狙ったビタミンE資材を全戸配布しました。

◆ 発電機の備えを検討する



◇発電機の設置には、事前に、電気工事士による配電基盤などの工事が必要です。

◇発電機を常設する際には、ほくでんへの届出、定期点検が必須です。また、非常時に接続する場合には、原則、電気工事士による作業が必要となります。

その他、詳細は、発電機取扱業者さんへご確認いただけたらと思います。

生活も、牛舎も、ようやく普通の生活に戻りつつあります。今回の地震・停電では、建物や人に直接的な被害がなく、厳寒期でもなかったことが不幸中の幸いでしたが、発電機、貯水道具、燃料備蓄、そして住宅内で必要な食料品、非常用品…など、酪農経営と家族を守るためにどのような備えが必要なのか、改めて考えさせられる災害でした。被災地にも、1日も早く日常に戻るようお願いばかりです。 （久富聡子）

.....
 ・9/25（火）の第3回酪農女性勉強会では、牛舎施設について、営農部佐藤裕也係長を講師に進めます。11月は町内での牧場視察を計画中です。どうぞお集まりください。